

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	消防団員高齢化対策事業							
1-2 担当	部	消防本部	課 又は施設	消防総務課	係	庶務係	評価票作成者 庶務担当 柴田義則	
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	消防・救急	コード	1 3 2
					単位施策(中)	消防体制の強化	コード	1 3 2 2
	項	生活安全・安心			単位施策(小)	消防団の活性化対策	コード	1 3 2 2 4
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	消防団員 平均年齢		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	全国的に消防団員数が減少してきている中、毎年、新入団員を確保し、消防団員の定数維持と団員の高齢化を防ぐ。			
1-5 事務事業の内容	消防団員の平均年齢は年々高くなってきており、災害活動等に影響がでる可能性が考えられる。したがって、消防団組織の強化・活性化を図るものである。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識			
	平成18年度	新入団員確保のため、積極的に団員募集活動を実施した。	全国的に、産業・就業構造の変化及び地域性等の変化により消防団員数は減少傾向にあり、団員の高齢化も進んでいる。		災害対応はもとより、祭礼警備、消防訓練等、地域に密着した活動により大きな期待感を与えている。			
	平成19年度							
	平成20年度							
	平成21年度							
	平成22年度							
	平成23年度							
	平成24年度							
	平成25年度							
	平成26年度							
平成27年度								

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
	消防団組織の強化(団員平均年齢)		35.0(歳) (-2.3%)	34.0(歳) (-5.1%)	平成18年4月1日現在の消防団員平均年齢(35.8歳)を基準とし、年々高まる平均年齢を若返らせ、消防団の活性化を図るため設定した。				

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	12									
	人件費 c(千円)	972									
	合計コスト d(b+c)(千円)	494									
	単位コスト d/a(千円)	1466									
		1人当たり 122	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 活動実績...新入団員数
 直接事業費...新入団員に対する被服代
 人件費...1年間の団員報酬

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
指標対応実績(単位)	35.8(歳)										
後期目標値に対する達成度(%)	95.0(%)										

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	A										

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	世論調査によると、「消防団に入らない」と答えた者の割合が70%弱にのぼり、これは、年々増加する可能性がある。また、平均年齢も年々増加し、災害対応に影響がでるおそれがある。	新入団員が入らなければ平均年齢が上がってしまう。新入団員確保の1つとして、魅力ある消防団にしなければならない。そのため、消防団装備を充実させるべく消防団員被服の更新を図る。	12名の新入団員を確保し、団員定数も維持できた。
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			